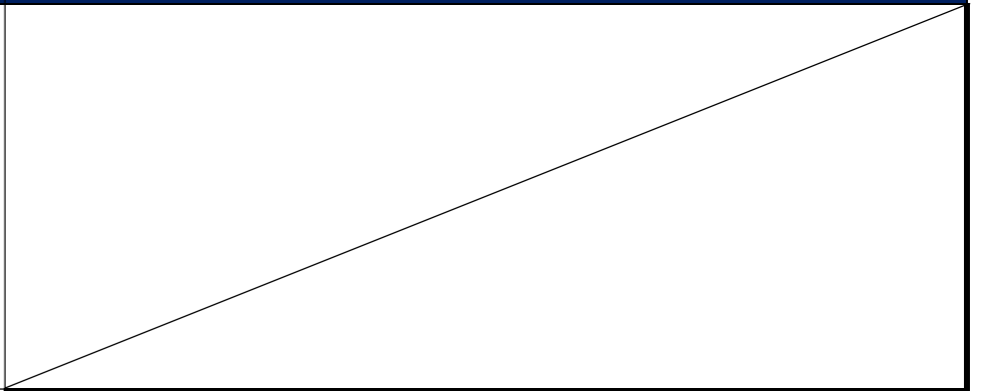


大田市内県立高校の現状と取組	大田市内県立高校の展望と課題
<p>【大田高校】</p> <p>・令和2年度から新しい学習指導要領が始まっている。キーワードは探究。</p> <p>現在大田高校は、三つの柱に基づいて学習指導に取り組んでいる。</p> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; background-color: yellow;">三つの柱</p> <p><b>ICT 教育</b>・・・ 一人一台端末を使った個別最適な学び</p> <p><b>協調学習</b>・・・ 教え合い、学び合い学習などの協同的な学び</p> <p><b>地域課題解決型学習</b>・・・ 生徒が地域の特色や産業を題材に、地域の魅力や課題を知り自分たちに何ができるかを主体的に考え行動する学習活動として総合的な探究授業。 (週2時間3年間を使って社会とのつながりを考える。)</p> </div> <p>島根県には ICT 教育・協調学習に特化したマイスターと呼ばれる先生が4名いるが、その中の2人が大田高校に在籍しており、非常に恵まれた教育環境にある。入学者が減少していても入学された生徒の学力を下げることなく国公立大学進学者の割合はキープしている。地域課題解決型学習に関しては、地域との連携が欠かせないので多くの地域の方々にご協力をいただいている。</p>	<p>・大田高校も邇摩高校も、時代の流れを察知しつつ、伝統の強みも活かしながら、生徒一人一人のニーズを大切に、引き続き日々努力していくことで入学者数の維持・増加につなげていきたい。</p> <p>・市内に普通高校、専門高校が2校ある贅沢なメリットを最大限活用していただくために各高校の取組等を広く認知していただく必要がある。</p> <p>・ICT 教育、協調学習、地域課題解決型学習はすべての高校で真摯に取り組んでいるが、この取組の維持・推進には魅力化コーディネーターの存在が必要不可欠。</p> <p>・義務教育(小・中)との切れ目ないつなぎや、役割分担が大切。</p>

<p><b>【適摩高校】</b></p> <p>・1、2、3年と段階を踏んで主体性や探究性を養っていくというグランドデザインをもとに様々な取組を実施。大田高目指す学校像として人間性豊かで、将来の地域を担う人材を育成。</p>	
--	--

各委員からの意見・提言	意見・提言に対する回答(阿部校長)	意見・提言に対する回答(武田教育長)
<p>・高校選びの際、進路指導等に親身になってサポートしていただけるなど先生方の子供に寄り添う姿勢が判断基準になるので、そういうところを意識して学校創りをしていきたい。</p>	<p>・真摯に受け止め、しっかりやっていきたい。</p>	
<p>・高校生の活動を広く知っていただきたいので、高校生と地域の方々と石見銀山テレビとで協力して、活動に対するドキュメントを制作するのはどうか。</p>	<p>・制作する際にコーディネーターが必要不可欠になる。もしくは、学校を介さずに生徒主導で行う方向でもよいのでは。</p>	<p>・イワタニ島根が「ゴッドハンズ」になぞらえて「ゴッドカンパニー」になると手を挙げられて、長久小学校の児童とひとつの取り組みができた。その取り組みを 銀山テレビで映像制作をしてもらえるのではと思っている。</p>

各委員からの意見・提言	意見・提言に対する回答(阿部校長)	意見・提言に対する回答(武田教育長)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生と関わっているなかで、一番懸念しているのは、コーディネーター不在のなかでの先生方への負担が大きいこと。少しでも負担軽減になるよう地域学習の事務連絡等は地域のコアメンバーでやろうではないか。また、民間に授業やコーディネートの部分を委託してはどうか。</li> <li>・コーディネーターという存在はとても重要。高校に優秀なコーディネーターを雇っていただくよう大田市にお願いしたい。</li> <li>・市がコーディネーターにふさわしいひとを認定するような仕組みはどうか。コーディネーターという存在を重要視する必要があるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターが市町と高校をつなぐということでは、市町の方に重心がある。市町が高校とどうつなぎたいかという意味でも、市がコーディネーターを就けるべき。高校が雇用した高校のコーディネーターではなく、市が雇用したコーディネーターが高校に来ているという立ち位置がいいのではないか。そういう意味では市と高校で考えの相違がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターを探しているがなかなかふさわしい人材が見つからない。その高校に合ったコーディネーターを高校と共に探したい。高校は自由に使えるお金はあるが、市には人件費を賄う予算がない。</li> </ul>

《コーディネーターに関するその他の意見・提言》

- ・地域と子どもをつなげる役割を学校に押し付けている。そうではなく、地域が子どもたちと関われるような仕組みを作ったり、コーディネーターを育てたりしていかなければならない。
- ・コーディネーターはひとりふたりで構成するのではなく複数の方々がパートタイムで行う仕組みはどうか。そうすることにより自分の得意とする専門分野を担当することによっていろいろな側面に対応しやすい。
- ・複数の分野に特化した方はなかなかいないので、専門性の高い方々を複数名用意するのは良い案だと思う。そうするとコーディネーターをコーディネートするひとが必要となる。

各委員からの意見・提言	意見・提言に対する回答(阿部校長)	意見・提言に対する回答(武田教育長)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のモチベーションは生徒に伝わるのでその教員のモチベーションを上げるための研修等を見直しするべき。コーディネーターの配置がなくても地域とつながりのある魅力的な学校はあるので、そういう学校を参考にしてみてもどうか。</li> <li>・地域と学校が情報を共有してひとつの視点に向かっていく。報道関係や YouTube などを活用することで、地域の方々に学校の取組を知ってもらうことで、地域全体のモチベーションがあがるのではないか。</li> <li>・高校の全教員が魅力化に対するモチベーションがあるわけではない。そのモチベーションをあげる方法として、校内研修で教員の共通理解を図っていくべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や進学実績は、それなりの力を持った生徒に来てもらえればきっちり結果は残せる。</li> <li>・出雲高校の勤務経験者8名、松江北高校の勤務経験者10名いるので学習環境は他の高校にまったく劣っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体のモチベーションを上げ、子供たちが地域で育っていくこと、地域のひとりひとりがコーディネーターになっていくことが大事。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生が、地域が好きで地域で奮闘している大人に出会えることが大事。出会いのきっかけとしてアルバイトがあるが高校生のアルバイトは禁止されている。しかし、社会経験や職業体験ができ、何も損になることはないので、月一日でもいいからルールに沿った方法でチャンスを与えてあげてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大田高校は、ルール上アルバイトをするのは難しいが、専門高校は夏休みの半分はアルバイトをしてもよいというルールがあるので、瀬摩高校であれば可能ではないか。</li> <li>・津和野高校は「地域貢献アルバイト」といって、津和野町内に限り、津和野町の商工会から紹介された企業に限りアルバイトができるという仕組みを作った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大人たちが地域の子供たちの個人的にでも手を引っ張って地域の課題に向き合いその課題を解決していけるような子供を育て、共に育むことが大事。</li> </ul>

## 各委員からの他の意見・提言

・大田のために何かしたいという話をよく耳にする。全国で合唱の指導を行っている大田出身の方が、歌で大田市を元気にするためにはどうしたらいいかということを言われている。最近歌われなくなった市歌や町歌などを子供から大人までみんなで合唱する際に合唱指導していただくのはどうか。東京などで活躍されている大田出身の方が帰省や仕事で島根に来るタイミングで、大田で講演会などを含め何かしていただくのはどうか。サンレディー大田の音響スタッフの方など大田市在住でも素晴らしい方は沢山いらっしゃる。

・子供たちに書く力を身につけてほしい。自分で考えたことをどう発信できるかという力を身につけてほしい。ある学校で一年間毎月、新聞の投稿欄に投稿するという授業が実施され、毎月投稿するのはとても大変だけど一年間続けたら書く力が非常に身についたという結果が出た。市内の中学校・高校でも取り組んでみてはどうか。大田の中学校、高校に通えば書く力が身につくということを書りにできれば良いのではないか。

・温泉津では、100 人会議（保育園児からおじいちゃんおばあちゃんまで）が行われ、出た意見に対し大人たちが本気になって取り組み、温泉津ならではの「ディズニーランドのパレード」や「駄菓子屋」など子供たちの夢を小規模ながらも実現している。子供の夢を少しずつ叶えていくことにより町に魅力を感じ、地元に残るひとが少しでも増えればと思っている。大田市全体でこのような取り組みを実施してはどうか。